

5)夏どりレタスの栽培指標

上川農業試験場 畑作園芸科

1.試験のねらい

北海道におけるレタスは作付面積が600ha、生産量が1,200t程度であるが消費地の出荷期待量は大きい。しかしレタスは高温期には異常球等の発生が多くなり、その生産は不安定なものとなっている。本試験では、夏どりレタスの高品質安定生産技術の確立を図るため、適品種の選定を行うとともに、異常球発生の対策技術を検討した。

2.試験方法

適品種の選定は品種タイプに分けて検討した。また、育苗条件(ポットサイズ、定植時期)、マルチ資材、施肥量、栽植密度、直播栽培について検討した。

3.試験の成果

- 1)グレイトレイクスタイプは、大球であるが、抽だいや過大軟球に注意する。エンパイヤタイプはやや大球で球内抽だいは遅い。しかし、しまりは期待できない。フルトンタイプは球のしまりが良く、抽だいても遅いが、小玉とならないように注意する。バンガードタイプは抽だいの危険性が大きい(図1)。
- 2)育苗期間が短く、ポットサイズが大きいほど生育、収量は良好であり、異常球の発生も少なかった。夏どり栽培においてはペーパーポットV4(ポット1本50cc)では3~4葉期までに定植することが望ましい(図2)。
- 3)地温上昇抑制効果のある白黒ダブルマルチにより、欠株や異常球の発生が少なくなり、生育、収量も安定し、抽だいても遅くなった(図3)。
- 4)窒素施肥量が4kg/aでは生育が不安定となり、1kg/aでは窒素不足で減収となった。夏どり栽培での窒素施肥量は1.5~2.0kg/a位が適当と考えられた(図4)。
- 5)栽植密度が疎くなるほど球は重くなったが総収量に差はなかった。株間はフルトンタイプは25~30cm、大玉を求める品種は30~35cm位が良好と考えられる(図5)。
- 6)直播栽培は、発芽障害、生育不良の可能性が大きく、不適當である。

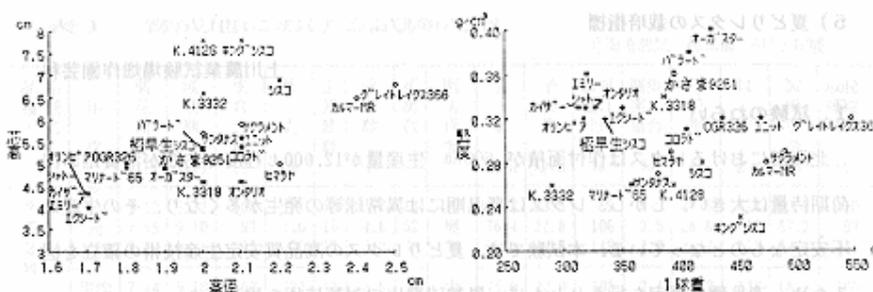


図1 各品種における茎径と芯高の関係(左)及び1球重と緊度の関係(右)(平成1年)

○：グレイトレイクスタイプ、×：バンガードタイプ、●：エンパイヤタイプ、■：フルトンタイプ、
□：エンパイヤ×グレイトレイクス、+：フルトン×バンガード、*：バンガード×エンパイヤ

なお、緊度(D)は次式より求めた

$$D = \frac{W}{1/6\pi \cdot d_1^2 \cdot d_2} \quad (W : \text{球重}, d_1 : \text{球径}, d_2 : \text{球高})$$

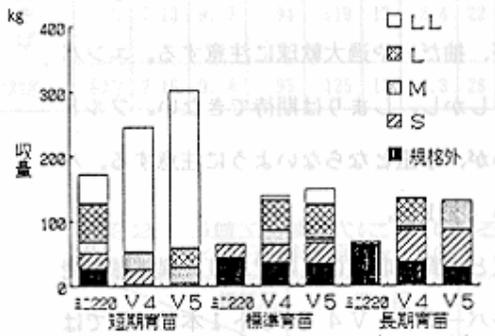


図2 各育苗処理における規格別収量 (昭和63年)

V4において短期育苗は2~2.5葉、標準育苗は3.5~4葉、長期育苗は5~5.5葉である。

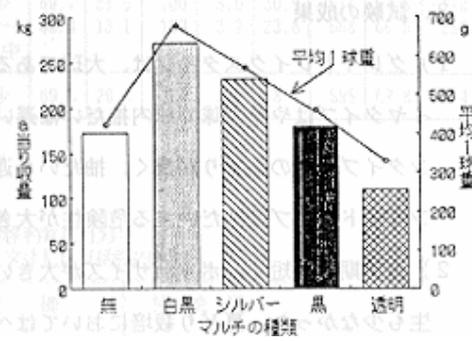


図3 各マルチ処理における収量と1球重 (昭和63年)

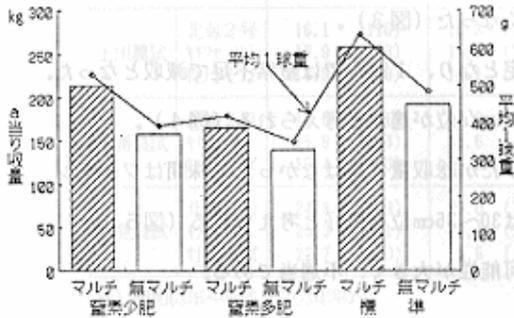


図4 各施肥処理及びマルチ処理における収量と1球重(昭和63年)

a当たり窒素施肥量は、標準が2kg、少肥が1kg、多肥が4kgとした。

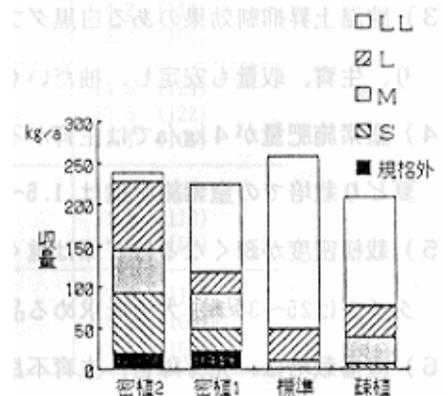


図5 各栽植密度における規格別収量 (昭和63年)

株間は、密植2が25cm、密植1が30cm、標準が35cm、疎植が40cmとした。